資料１－１

岩手県東日本大震災津波復興委員会
第16回総合企画専門委員会の概要について

１　開催概要

(1) 日　時　　平成28年 3月 9日（水）16：00～17：20　エスポワールいわて
(2) 出席者　　委員６名（２名欠席）
(3) 議　事　　①　第２期復興実施計画の施策体系・事業に基づく進捗状況について
②　平成28年度における復興関連予算の概要について
③　第３期復興実施計画の策定について

２　審議概要

審議中に出された主な意見は、次のとおり。

［齋藤委員長］

・市町村ごとではなく、三陸全体で取り組む動きとして、**沿岸市町村復興期成同盟会が発足し、共通のビジョンを持って取り組むことは一つの前進**である。県は、連携して取り組む動きを推進するようにフォローしていただきたい。

・今まで津波対策として、ハード整備を進めてきたが、それでも犠牲者を出してしまった。今後、**防潮堤や土地の嵩上げが完了したら安心というような人の意識の変化があると、今回の大震災津波の教訓が意味のないものになる**ので、検証をすべきである。

［谷藤委員］

・今回の資料は、復興事業の進捗であって、「復興の進捗」ではない。復興の到達点を県、市町村、住民とで意識合わせをすべきである。また、行政のできる範囲を明示するべきである。

・県予算が平成27年度と比較して、平成28年度は約450億円減少しており、これは県内総生産が４兆円弱であることから１％の影響がある。復興事業費が復興の進捗とともに減少していく中で、ネガティブインパクトにどう対応するかを早めに検討すべきである

・サービス業や小売業に関しては、**地域の商圏人口の減少が進む中で、再建したいという方の意向に沿って、全部再建するということが可能なのかということを考えていかなければならない**局面も予想されるので、対応を検討すべきである。

裏面に続く

［平山委員］
・各振興局が市町村の区域を超えた異業種の連携などの事業を仕掛けることは、三陸全体の発展においては望ましい。
・平成28年度は、第３期復興実施計画の準備もあり、ハード整備も進んでいくが、「なりわいの再生」の取組を継続して進めていただきたい。
・第３期復興実施計画では、防災に関するハード事業を進めるだけではなく、**人材の育成を進めていただき、防災のリーダーを岩手から輩出**するようにしていただきたい。
・**今回の災害を乗り越えて、岩手は「こう変わった」ということを打ち出し、発信**して欲しい。

［広田委員］
・**事業進捗に遅れがあることは当然であり、公表することはいいこと**である。遅れの要因を整理し、記録して積み上げていただきたい。その結果を、**次の自然災害に備えて、教訓として残し、発信**していただきたい。
・県内では、訓練の成果もあり、学校管理下での小中学生の被害は無かったが、高齢者の方は多く亡くなってしまったので、油断があったのではないか。これから**立派な堤防ができたら津波のことを忘れてしまうので、津波に対する危機感を持ち続ける**ようにしないといけない。

［南委員］
・自分たちの暮らしにおいて、**玄関に「避難完了サイン」を掲げるなど簡単にできることを文化として根付かせていくべき**ではないか。

［若林委員］
・震災から５年が経過し、平成28年度は、第３期復興実施計画の策定を進めていく重要な年度となる。一方で、**５年が経過し、事業主体や被災者は、疲れている状況である。復興を進めていくため、何かメッセージを出すべき**はないか。
・最後となる２カ年の中で、三陸地域において津波で命を失うことがないように徹底する事業を打ち出していただきたい。